

介護福祉士養成教育における介護実習の意義に関する基礎的考察

— 学生の意識変化の視点から —

新潟医療福祉大学 社会福祉学科
星 紀恵子

1 はじめに

平成 21 年度より、社会福祉士及び介護福祉士の養成教育は大きく変わる。介護福祉士について言えば、介護福祉士資格取得時の到達目標を 11 項目掲げ、「介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力」を持つ介護福祉士像として 12 項目を求めている。それに伴い、介護実習もまた、大きく変化する。このような状況の中で介護福祉士養成教育における「介護実習」の位置付けは、ますます重要性を増している。

2 研究目的

介護福祉士養成教育における介護実習の果たす役割は、いくつかあると思われるが、中でも、講義や演習で学んだ理論や知識を実践と結びつけることは大きな役割と言える。この実習を有意義に行えるかどうか、求められる介護福祉士像になれるかどうかの大きなポイントになると考えられる。そこで、本研究では、介護福祉士養成教育における介護実習の意義を明らかにするための基礎的考察を行う。

3 方法

本学の介護福祉コースに在籍する学生について、自らが関わった介護実習に臨む前と終了後の「介護実習指導」、いわゆる「実習事前指導」と「実習事後指導」における学生の意識の変化、および、定期的実習巡回指導時における学生の意識の変化を基に考察を行う。

併せて、現行の介護福祉士養成カリキュラムと、介護福祉士の質の向上という社会的要請に応えるべく平成 21 年度からスタートする介護福祉士養成教育カリキュラムの見直しを比較検討し、介護実習の意義を追求したい。

4 結果

(1) 学生の実習における実践へのアプローチ

介護実習時の貴重な体験は、利用者と接することである。その関わりの中で、学校内で学んだ知識・技術を自分で確かめたり、試みたりする。学生から、実習における「認知症」の体験談を書き出してもらったところ、「徘徊をしていた」「大声をあげていた」「何度も同じことを聞いてくる」など、様々な記述があった。これらは、当然、学生は学内において、講義や演習において学んだことであるが、それらを、実体験し、戸惑い一つも対応する。このことは、学内での講義や演習での学びを福祉の現場で実践していることである。

(2) 「実習目標と課題」における実習に対する学生の意識 介護実習 I における実習目標と課題に、ほとんどの学生

が「コミュニケーション」を挙げる。次に「施設の機能、構造、設備」「福祉用具」「業務内容の把握」等で「介護技術」は意外に少ない。以上のことから初めての实習において「コミュニケーション」に関心が高いことがわかる。

(3) 実習巡回指導時における学生の意識の変化

巡回の初回は、必ずといっていいほど、実習に対する不安や戸惑いを訴えてくる。そして、その中身は、介護に対する知識や技術より、コミュニケーションに対するものである。実習が進むにつれて介護技術、介護知識に対する不安や質問へと心理的に変化していく。

(4) 介護実習の位置付け

平成 21 年度からの介護福祉士養成教育カリキュラムでも、実習の時間数に変わりはない。しかし、「実習施設・事業等に係る基準の見直しの基本的考え方」で次の 2 点に対応できるよう見直しを行うとされている。①様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とすること。②利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とすること。その他、実習指導者に係る基準の見直しや定期的巡回指導に係る基準の緩和、介護総合演習と実習との一体的な教育効果の向上を図るとしている。

5 考察

学生は緊張、戸惑い、不安の中で実習を進め少しずつ自信と技術を身につけていく。一方、厳しい現実を見せつけられる場でもある。介護実習をとおして、介護に対する意識と専門性を高めていく。実践に必要な知識・技術・姿勢を学んだ上で介護実習に臨み、終了後に実習での学びをさらに深めていく必要がある。

まとめとして、本研究から得られたことは次のとおりである。①学生は、学校内で学んだことを社会福祉施設の現場、とりわけ利用者との関わりの中で実践と結びつけようとしていること。②介護実習時の学生の心理的变化には一定のプロセスが見られること。③介護実習は、様々な点で介護に対する意識の高揚に繋がっていること。④介護福祉士養成カリキュラムにおける介護実習の役割が重要であることを再認識できたこと。

6 今後の課題

今回の基礎的考察をもとに、学生の実習に対する意識をより深く理解し、介護福祉士養成教育における介護実習の意義をより明確にすること。そして、学生の介護実習に対する不安を軽減し、実りある実習にしていくための一助としたい。